

宇宙と家庭・地域を結ぶ



「宇宙の学校」は  
KU-MAの登録商標です

# 八王子 宇宙の学校

—平成24年度レポート—

## 八王子「宇宙の学校」第2年度を終えて



八王子「宇宙の学校」実行委員会 運営本部長 下山 邦夫

一昨年、八王子市教育委員会と東京八王子プロバスクラブが中心となり、各種団体のご協力で創設した八王子「宇宙の学校」が、2会場でスクーリングを実施するほどに成長しました。全市の小学校1、2年生を募集対象にした本部会場（市教育センター）に加えて、都立桑志高校会場を開きました。桑志高校会場は近くの市立第5小学校と、地域学校間連携によって開校したものです。KU-MAの理念〈あらゆる家庭、あらゆる地域、あらゆる学校の皆さんと力を合わせて、子どもの心に火をつけたい〉を実践しています。第5小学校の深い理解と、高校生ボランティアをはじめ桑志高校の絶大なご協力によるものです。

本部会場でも広い会場でのスクーリングが伸び伸びとでき、昨年度にも増すポテンシャルを感じました。このように一段と発展した本年度の状況をレポートいたします。ご高覧の上今後とも八王子「宇宙の学校」の発展のためご叱声、ご協力をお願い申し上げます。

## 八王子「宇宙の学校」

主 催：八王子「宇宙の学校」実行委員会  
(八王子市教育委員会・東京八王子プロバスクラブ・他)

共 催：認定NPO法人KU-MA「子ども・宇宙・未来の会」  
JAXA宇宙教育センター

後 援：八王子「宇宙の学校」後援会、  
特別協賛 株式会社スリーボンド、株式会社エイビット

特別協力：東京都立桑志高等学校および八王子市立第5小学校（地域学校間連携）

協 力：社団法人スコーレ家庭教育振興協会、東京工科大学生有志、  
拓殖大学サイエンスボランティア、サイエンスドーム八王子ボランティア

## 「宇宙の学校」とは…

認定NPO法人KU-MA「子ども・宇宙・未来の会」(相模原市由野台JAXA内)（会長：JAXA名誉教授 的川泰宣 博士）が主宰し、北は北海道から南は沖縄まで全国各地で開校が広がっている、小学校低学年の親と子の絆を強め、地域が協力して新しい子どもを育む仕組みです。「宇宙の学校」では、「宇宙を家庭に届ける」「宇宙を通じて子どもと家族の絆を強める」という考え方を重視しています。「宇宙の学校」は、スクーリングと家庭学習を結合させたもので、一般的な所謂「科学教室」の域を越えて、新しい時代の流れを創るための主張と実践です。その目的とするところは、「宇宙のさまざまな素材・身近にある教材」を活用し、「命の大切さ」を導きとして、子どもたちの心に潜む好奇心、冒険心、匠の心を育むことです。私たちは、「宇宙の学校」が子どもたちの心に火をつけ、日常的・継続的な意欲を結びつけて、新しい日本を築く巨大な流れになることを夢見ています。

## 八王子「宇宙の学校」実行委員会の構成

顧 問	八王子市長・八王子商工会議所会頭
相 談 役	八王子市教育センター館長・KU-MA「子ども・宇宙・未来の会」理事・東京八王子プロバスクラブ元会長
委 員 長	八王子市教育委員会教育長
副委員長	八王子市学校教育部指導担当部長・生涯学習スポーツ部長・東京八王子プロバスクラブ元・現会長
事務局長	東京八王子プロバスクラブ元幹事
同 次長	八王子市こども科学館長
監 事	元企業監査役・元日本監査役協会常任理事
委 員	八王子商工会議所・大学コンソーシアム八王子・JCN八王子テレメディア・KU-MA「子ども・宇宙・未来の会」・都立八王子桑志高等学校・社団法人スコレ家庭教育振興協会・東京八王子プロバスクラブ・学識経験者

## 八王子「宇宙の学校」後援会役員の構成

顧 問	八王子商工会議所会頭
相 談 役	国際ロータリー元ガバナー・ライオンズクラブ国際協会元ガバナー
会 長	東京八王子プロバスクラブ元会長
副 会 長	東京八王子高尾ライオンズクラブ元会長・八王子商工会議所元専務理事
幹 事 長	東京八王子プロバスクラブ元幹事
幹 事	東京八王子南ロータリークラブ元幹事
会 計	東京八王子プロバスクラブ
監 事	元八王子税務署長・元日本監査役協会常任理事
理 事	市内各奉仕団体会員・学識経験者

# 新春 鼎談

ゲスト：KU-MA「子ども・宇宙・未来の会」会長 的川 泰宣 先生  
株式会社スリーポンド代表取締役社長 落合 信二 様  
ホスト：八王子「宇宙の学校」後援会長 杉山 友一



左からの川先生、杉山後援会長、落合社長

**杉山** おはようございます。前年度の八王子「宇宙の学校」も無事閉校し、すでに平成25年度の開校に向けた準備が始まっています。そこで、本日は、この事業の一層の振興に向けて新春鼎談のひと時を企画致しましたところ、超ご多忙の中、要人ゲストお二方をお迎えすることが出来ました。大変光栄に存じます。どうぞ宜しくお願ひ致します。

それでは、早速ですが、「宇宙の学校」は宇宙を素材にした未来志向の実践教育ですが、KU-MA が全国展開して早や5年経ちました。まずそのご感想を、的川先生如何でしょうか。

**的川** 始めたころは、理念はあるものの、一方では明確でなかった進め方についても次第に確立してきました。5年たって全国で約50か所、延べ人数では相当な数になって来ており、声をかけると必ず「やりましょう」とな

ります。これ以上拡大すると、NPO としては事務局の手も回らなくなりパンクしそうな状況になっていますし、質の維持にも問題が出てきそうで非常に悩んでいます。一方、5年を迎えて更に脱皮して、できるだけ大勢の家庭に参加してもらいたいとも考えています。

そこで先日文部科学省に行き、事務次官をはじめ中枢の方々にお会いして説明してきました。「宇宙の学校」は家庭に焦点を合わせているので生涯学習局の管轄と判り、局長と話をしました。局長は事前に「宇宙の学校」についてホームページを見ておられ、『「宇宙の学校」は、家庭に知的な環境を持ち込むものであり、生涯学習局が重要な柱として一番やりたいことだ。今後は一緒にやって行きたい』と言って頂きました。

このこともあって、NPO が担務する規模

を超えていたなとも思いながら、5年を過ぎて今後ますます広がって行くといいなとも思っています。

**杉山** 「宇宙の学校」はよくある一般の科学教室とはコンセプトに違いがあると思われますが、的川先生の熱い想いの核心をお聞かせ頂けませんか。

**的川** 東日本大震災で大きくクローズアップされたことは、家族や地域の絆の大切さが日本



全国で大きく認識されたこと、しかも日本はそれが強い国でもあることを我々が自覚したこと

とです。一般的な科学教室は子どもたちを集めて、教室が開かれている1～2時間だけ優秀な先生が科学教育を行い、その場では心が高ぶり満足して帰るが、家に帰ると圧倒的に多くの時間を家族の中で過ごし刺激がない状態になります。これはプロ野球を見に行ってその時だけ盛り上がり家に帰ると元の生活に戻ることに似ています。

「宇宙の学校」では、実験や工作を親子が並んで一緒に行うきっかけ作りをやって、帰りにテキストを渡し家庭に帰っても一緒に学ぶ習慣を持つようになって欲しいと思っていました。また、それによって家庭と学校の分断が改善されて、家庭が学校を支えるという循環ができるんだろうという想いがありました。

始めて見ると本当にその通りでした。モンスター・ペアレントは自分の子どもだけが可愛いのだが、そうではなく地域の子どもみんなが一緒に大事なのだという意識が生まれ、いじめが減ることに繋がればよいと考え始めたのです。

**落合** 今の話ですが、私どもの会社でも創業者が、社員が残業で遅く家に帰り風呂に入った

ら食事をして寝るだけ、という生活を危惧して『週に一度は定時で家に帰って、家族と一緒に食事をしなさい』とおっしゃっていたのを思い出しました。家族で話をしながら食事をすることはとても大切ですね。

**的川** あるお父さんは『「宇宙の学校」に来ようになってから家庭の雰囲気がガラッと変わった。それまでは、家族バラバラで自分のことをやって他の家族を邪魔にさえしていたが、今では家族が色々なことで協力するようになっている』と言うのです。家族は一緒にいることは勿論大切だが、その上で協力し合って何かを仕上げるということはもっと大切であると思います。

**杉山** スリーポンドさんは、この八王子「宇宙の学校」プロジェクトを、最初の計画段階でご相談に伺ったところ早速ご理解いただき特別協賛をご快諾下さいました。そのことがその後の後援会の基盤整備につながった次第です。御社はかねてから色々と社会貢献活動をなさっておられます、基本的なお考えのようなものを伺えればと思います。

**落合** 当社には、創業理念（＝「仕事を通じて愛を実現する」「仕事を通じて人類、社会に奉仕する」「仕事を通じて魂の向上、発展をはかる」）があります。私たちは、この理念を実践すべく、社員教育で徹底的に鍛えます。私たちがこうしていられるのは、その75%は、ご先祖、神、仏、大自然のおかげであり、残りの25%が自分の努力によるものといわれています。そうすると、ほとんどが活かされているということですから、そのことに感謝しなくてはならないということになります。自分が努力して皆が幸せになるようにするには何ができるのかを考えて実





行しなさい、ということです。

また、「創造こそ最大の愛にして奉仕なり」と教わってきましたので、人類の文化に寄与するものであれば、どんなに小さなものでも、最大の奉仕に値します。われわれは産業人ですから、献身的な奉仕（＝創造）を通じてお客様の利益を図っていくことが、社会貢献に繋がります。当社はメーカーですので、開発・製造・販売と様々な部門がありますが、そこでの経験だけではだめで、四無量心の行いによって徳を高め、自分を磨かなければならぬということが理念に謳われています。社員の行動はこれらの理念に対する理解に根付いていると思っています。

以上の理念の基に先ず地域からお返しをして行こうと思い、八王子「宇宙の学校」を後援させていただきました。すでにスペシャル・オリンピックス（知的発達障害者のスポーツ競技会）の支援も行っており、競技会の運営サポートに社員もボランティアとして積極的に参加しています。

**杉山** スリーボンドさんは国内外であらゆる産業分野にファインケミカルテクノロジーを提供されていますが、技術者の教育や養成の面で、入社間もない若い人たちに対して重視している点はどんなことですか。

**落合** 先々代の社長が採用面接で「あなたの大学の学長の名前は」と質問して、答えられなかつた全員を不合格にしたことがあります。今の学生を面接すると、模範的な素晴らしい答えが返って来るものの、学校で習っていないことには対応できないことが多いように思えます。面接では社会性、柔軟性、コミュニケーション能力といった社会人として極めて重要な面を見極めています。

子どもたちが親と一緒に実験工作を行うことでコミュニケーション能力が育ち、成長につれて新しいことに対応できるようになると思います。小さい頃からのそのような取り組みをお聞きできるという意味で、今日の的川

先生のお話を楽しみにしています。

当社の教育としては、理念と価値観を理解した上で、高尾山の薬王院で德育研修、製造現場実習および営業実習を行います。営業実習ではお客様を知り商品を知るために、文系・理系の区別なく新規開拓に取り組ませます。

**杉山** 的川先生は人生をおくる上での感性は小学校5年生位までに形作られるとおっしゃっていますね。この辺の想いをお聞かせ頂けませんか。

**的川** 自分の経験ですが、全国各地の大人に『あなたの人生の中で、自分の人生観を形成した最も重要な時期はいつごろですか』と聞くと、平均は小学校5年生前後になります。一生を貫くものの考え方や見方の基本が芽生えるのはその頃のようです。殆ど人が、自我に目覚める小学校5年生ごろの記憶がありそう思うようですが、実際はもう少し前から出来上がり始めていると思われます。小学校5年生では人生経験が浅いので、今が一番重要な時期だとは気付かないでしょう。だから家族が重要なのです。今この子に一生の方向性を形作るものと考え方が育ちつつあるのだと親や近所の人たちが気づき、育むことが重要なのです。私の小学校5～6年生ごろの記憶では、「この世の中の皆が幸せになるといいな」と思っていました。宇宙の仕事を半世紀近くやってきましたが、その間にはその思いは全く忘れていました。1990年代にバブルがはじけ、“酒鬼薔薇事件”など少年犯罪が増えてきたころ少年時代のことを思い出し、「宇宙を素材にして子どもの心をしっかりと育てよう」と思い到り、「宇宙の学校」に繋がったのです。

社会的に素晴らしい生き方をすること、家族を中心に自分の近くにいる人を幸せにすること、の両方を実現できるのが理想だと思います。

**落合** 私の経験でも、家族の絆、家庭でのコ

ミュニケーションが重要であり、いじめ問題は親の責任も大きいと思います。その意味でも「宇宙の学校」で親と子が共に学ぶことは素晴らしいと思います。

**杉山** さて、的川先生、国際比較では日本の青少年の理数の実力は今どの辺に位置しているのでしょうか。

**的川** 平均値ではかなり高いと思います。ただ一番の問題点は、学力ができる子たちが



勉強好きではないことです。これは子どもにとっては幸せではありません。好きこそもの

の上手なれで、本当の実力が發揮できるのです。日本の最大の問題点はここにあります。何のために勉強しているのかわからないままでも、学力だけがついているのです。そういう学力は将来全く役に立たないものだと思います。小学校1年生・幼稚園児・保育園児は皆遊ぶこと、動物が大好きです。勉強が嫌いになるのは過渡期に問題があるのです。好きなことについては知りたいと思うのは自然なことですが、家庭の問題なのか何なのかわからないのですが、大人が対応する時の問題点があります。実情を調べてそこになんとか楔を打ち込みたいと思っています。

野依さんがノーベル賞を受賞した時の会見で記者から『人生経験の何がノーベル賞に繋がったと思うか』との質問に『子どものころ野山を走り回って遊んだこと』と答えてされました。しかし、遊ぶだけなら他の仲間もいたわけで、生まれつきの感性があり更に何か別のきっかけが働いていたのだと思います。それが家庭なのか、小学校の先生なのかわからないけれども、きっかけを与えた大人がいたことは間違いないと思います。「宇宙の学校」はそういう存在でありたいと思って

います。子どもが楽しいと思ったことからスタートする子ども目線が大切です。

**杉山** スリーポンドさんは世界展開されていますが、海外現地の若い社員と日本人社員との比較で日本の若者たちに何かご感想がありますか。

**落合** 当社は、日本を含む23カ国に164拠点のネットワークを持っています。外国の社員は、給与面でも何でも自分の意見を言い、自己主張が強いですね。日本の社員は、今でも自分の意見を言う前に色々な配慮をしたり、あうんの呼吸に頼る面があります。今後、企業が生き抜くためには、日本人ももっと自己主張が必要になってくると思います。また、国内外を問わず、好きでもない仕事を我慢してやるには限界があり、その人は伸びません。仕事には意欲が必要で、そのためには創業理念をよく理解して、会社に溶け込み、崇高な目的のために、意欲を持って仕事をすることが必要だと考えます。

当社は6極（日本、北中米、南米、欧州、アジア、中国）で事業を行っています。自動車産業、電気電子産業が発達している国には必ず進出しています。40年前にアメリカ、39年前にブラジルに拠点を作りました。創業者が唱えた、理解（Understanding）・信頼（Reliance）・友情（Comradeship）を意味する「URC活動」というのがあります。海外進出ではこのURC活動を前面に出して、お客様や地域の方々、現地社員と理解・信頼・友情という心のつながりで海外進出を成功に導くことができました。これが23カ国で事業展開できるようになった基本です。勿論今では、言語を含め海外事業に必要な項目は増えていますが。

**杉山** 的川先生、宇宙開発という点では、米国、ロシア、欧州、中国、日本を5強とすれば、日本のポジションは如何ほどになりますか。日本の強み、弱みはどんな点ですか。

**的川** 分野によりますね。米国は全分野に強く



文句なしの世界一です。ロケット技術を打ち上げ成功率で見ると5か国は約95%で並んでいます。宇宙開発は国力がないとできないので、私は宇宙開発の仕事ができたのは日本の経済力のお蔭だと感謝しています。それゆえに宇宙を通じていい国を作らなければならぬし、いい貢献をしなければならないと思っています。「はやぶさ」の経験で、世界一のものを1つ作るなら日本ほど強い国はないと思いました。町工場や中小企業の力が強く、職人さんの技術力が強いとつくづく感じました。職人さんのネットワークも強く、自分の力に余るときには全国の中からやれる職人を紹介してくれます。我々はこのモノづくりの力をもっと活用しなければならないし、それが国を盛り立てるための重要な要素ではないか、我々は日本の長所を生かしきれていないのではないかと思います。日本の弱点であるシステム技術が強くなれば、世界一の部品技術と併せて日本の宇宙開発力は必ず強くなります。

**杉山** いずれにしても、宇宙はもう夢ではない現実の世界だとするビジネス企業も続々と登場しています。宇宙太陽光発電の研究などもいよいよ本格化してきましたが、宇宙ビジネスの将来と日本のポジションについて的川先生はどんな風にお考えですか。日本の宇宙ビジネスはコスト高で広がらないようにも見えます。

**的川** 日本での宇宙ビジネスの広がりについては私にも確信はありません。先ず、民間の役割と国の役割があると思います。今米国では、宇宙は民間に広がっている時期です。ITで成功した人やNASA出身エンジニアなどが元気に取り組んでいます。米国では地球観測は全て民間がやってますし、人間を飛ばすこともやろうとしています。遠からず日本の宇宙飛行士が米国の民間のロケットで宇宙に行くということになるでしょう。日本でも超小型衛星など民間でできることはどんどんや

れば良いと思います。日本の宇宙ビジネスは需要や産業規模が小さくなかった事業にはなりにくいと言えます。国の役割は、宇宙をビジネスとして育てるだけではなく、日本の将来への投資や未来への挑戦として位置付けることが重要だと思います。人間が宇宙に出なければ地球のことも理解できないと思いますので、そういう視点を国が持たないといけないと思います。米国の大統領の演説では宇宙のことがよく出てきます。日本の総理大臣の演説に宇宙は登場しません。国作りのなかでの宇宙の役割が自覚されるためには、国としての誇りが必要であるし、世界に対してどう貢献して行くかという高い志がないといけないのだと思います。そのあたりが日本の限界でしょうか。国の宇宙関連予算はGDP比率でみるとフランスの3分の1ぐらいです。私たちは金がなければ出来ないとは言わず、糸川先生の教え“金がなければ頭を使え”でやつていきます。町工場の力をどうやって維持発展させるかも別の大きな課題だと思います。

**杉山** ビジネスとしての宇宙環境利用の広がりは当然のこととして、宇宙の機材、資材の広がりに連動していくと思われますが、スリーボンドさんのファインケミカルテクノロジーの視点ではどんなご感想を持たれますか。

**落合** 当社の宇宙関連の実績として、人工衛星の基板のコーティング材をあるお客様に納入したことがあります。中小企業としては、宇宙のような特殊環境で使われるものを、コストは高いが少量作ることは確実に出来ます。ただ、それを量産技術につなげることは難しいですね。我々が独自に工夫する条件が明確であれば中小企業は必ずりますので、どんなものを作れば宇宙に役立つか





についてもっと情報発信して頂ければ、我々は努力して軽くて安価でよいものを作り上げることができます。ただ、宇宙という使用環境については経験不足ですが…。当社は創業者が京橋の交差点で信号待ちをしていた際に、前の車が発車した後に路面で光るエンジンからもれたオイルを見て、自動車のオイル漏れを防ぐシール材を作ったことに端を発して、各種シール材・接着剤を作り進化してきました。現在も自動車産業で起こりつつある大きな変化への対応を懸命にやっています。

日本は中小企業でも自らの才覚によって事業を開拓してきました。産業分野が宇宙であろう何であろうと、日本がものづくり大国として復権するためにも、国や行政が側面支援し、日本全体の力を結集していくことができれば未来は明るいと思います。

**的川** おっしゃる通りで日本は個別の物作りは強いがシステム技術が弱い。システム技術は企業というよりも国民が弱く、外交に見られるように国も弱い。長年島国で培ってきた強みと弱みですね。それを地球的視野あるいは宇宙的視野に立って克服してゆくということが今後の日本にとって極めて重要だと思い

ます。

**杉山** 宇宙という視座で人間を考えると、つくづく人類はみな兄弟という思いに至るのでですが、的川先生、宇宙の平和利用という点では、これからはどんな展望が開けていくのでしょうか。

**的川** ロケットの起源は戦争にあったし、今でも平和と戦争という両面があります。ロケット技術に問題があるわけではなく、それを平和のために生かすには社会の条件が極めて大事です。宇宙の平和利用を考えるためにには、国として将来どの方向に持ってゆくかというデザインが必要でしょう。『宇宙利用で社会が変わりますか』という人がいますが、例えば（かつて糸川先生が提唱されたのですが）日米間を2時間で結べば世界は大幅に変わるでしょう。米国では実現に向けて動き出していますよ。そういう将来像を描くことが重要であり、宇宙は世界観を変える大きな材料になると思います。日本にはこういう視点が欠けています。例えば宇宙飛行士が宇宙ステーションに長期滞在した場合の新聞記者の質問は『何の得があるのか』ばかりで、『どういう貢献につながるのか』とは決して言わない





のです。宇宙ステーション費用として日本が年間400億円払っていることからこういう質問になるようです。私はこれは恐るべきことだと感じています。日本の世間の常識は「如何に得するか」にあるようですが、すでに日本は「如何に世界に貢献するか」を考えるレベルにきています。「この地球をどのような星にして行くかについて提案して行く国」になる時代に来ているのです。このような大きな方向性を出すのは政治家であり国の役割だと思います。

**杉山** 「宇宙」という言葉に対して国民の認識度は、日本は諸外国と比べて如何ですか。

**的川** 良くはわかりません。「はやぶさ」が帰還した2010年6月の前と後に、JAXAの認識度調査をやっていますが20%から80%に急上昇しました。しかし、内容は「はやぶさ」帰還時のオーストラリア上空での流星のような写真のイメージが強く、「はやぶさ」の本来のミッション（太陽系の起源探査）やイオンエンジンなどについての認識は高くなありませんでした。宇宙への認識は変わった

が、大幅に変わったとは思えません。大幅に変われば、政治家ももっと宇宙に関心を持つでしょうが、そうなってはいません。

**杉山** さて、あつという間に予定の時間が過ぎてしましましたが、今日は的川先生・落合社



長をお迎えして、それぞれに貴重なお話を伺いすることができました。私どもの八王子「宇宙の学校」事業も今年で3年目になりますが、少子化の時代とはいえ八王子には70校に及ぶ小学校がございます。KU-MAが主宰する「宇宙の学校」は、的川博士のブランドを掲げた地域教育活動の壮大な実験だと認識しています。

的川先生・落合社長、これからもどうぞ宜しくお願い致します。本日はどうも有難うございました。

(文中敬称略、記録編集 馬場 征彦)

## ★ ★ ★ ★ 「宇宙の学校」の目指すもの ★ ★ ★ ★

命のみなもと・宇宙にふれる  
—— いのちの大切さを学ぶ ——

親子で体験・スクーリング&家庭学習  
—— 家族の絆をより強くする ——

キーワードは「好奇心」・「冒険心」・「匠の心」  
—— 未来に向けて 人材の基礎を築く ——



回ったぞ！ 風車



飛んだか！ 傘袋口ケット



## 宇宙と家庭・地域をむすぶ



<平成24年度実施事業>

### 1) 本部会場

- (1) 対象・定員……小学校1・2年生とその保護者(2人1組)・68組  
 (2) 日時・内容・会場

期日・時間	内 容	会 場	参加者
<第1日> 10月21日 (日) 10:00～12:00	<開校式> ・曾根理嗣先生 (JAXA) の講演 ・家庭学習ガイダンスなど	サイエンスドーム八王子プラネタリウム内 (八王子市大横町9-13)	60組
次回開校まで	・親子で楽しみながら家庭学習配布教材から選択	自宅	
<第2日> 11月11日 (日) 13:30～15:30	<第1回スクーリング> ・ストローコケットを飛ばそう ・静電気で遊ぼう	八王子市教育センター (八王子市散田町2-37-1)	60組
次回開校まで	・親子で楽しみながら家庭学習配布教材から選択	自宅	
<第3日> 12月15日 (日) 13:30～15:30	<第2回スクーリング> ・コマを作ろう ・熱気球をあげよう	八王子市民体育館分館 (八王子市散田町2-37-1)	57組
次回開校まで	・親子で楽しみながら家庭学習配布教材から選択	自宅	
<第4日> 1月27日 (日) 13:30～15:30	<第3回スクーリング> ・万華鏡を作ろう ・星砂で星座絵を描こう (教材提供、解説) ・家庭学習成果発表会 <閉校式> (修了証交付)	八王子市教育センター	55組



## 2) 桑志高校会場（桑志会場）

- (1) 対象・定員 小学校1・2年生とその保護者（2人1組）・59組  
 (2) 日時・内容・会場

期日・時間	内 容	会 場	参加者
＜第1日＞ 10月7日（日） 10:00～12:00	＜開校式＞ ・遠藤純夫先生（KU-MA）の講演 ・家庭学習ガイダンスなど ＜第1回スクーリング＞ ・星砂で星座絵を描こう	都立桑志高等学校 (八王子市千人町4-8-1) 視聴覚教室 柔道場	53組
次回開校まで	・親子で楽しみながら家庭学習 配布教材から選択	自宅	
＜第2日＞ 10月28日（日） 13:30～15:30	＜第2回スクーリング＞ ・ストローロケットを飛ばそう ・熱気球をあげよう	都立桑志高等学校 体育館	56組
次回開校まで	・親子で楽しみながら家庭学習 配布教材から選択	自宅	
＜第3日＞ 11月25日（日） 13:30～15:30	＜第3回スクーリング＞ ・コマを作ろう ・静電気で遊ぼう	都立桑志高等学校 剣道場	51組
次回開校まで	・親子で楽しみながら家庭学習 配布教材から選択	自宅	
＜第4日＞ 12月16日（日） 13:30～15:30	＜第4回スクーリング＞ ・的川泰宣先生の講演 ・万華鏡を作ろう ・家庭学習成果発表会 ＜閉校式＞（修了証交付）	都立桑志高等学校 大会議室	45組

（注）開校式の記念講演は、予定されていたKU-MA的川泰宣先生の海外出張の延長のため同じくKU-MAの遠藤純夫先生に変更されました。

### 本部会場で運営にあたったボランティアの方々

拓殖大学（6名）、東京工科大学（10名）、（社）スコーレ家庭教育振興協会（10名）  
 サイエンスドーム八王子（4名）、東京八王子プロバスクラブ（40名）

### 桑志会場で運営にあたったボランティアの方々

都立桑志高等学校有志（校長、副校長、生徒有志）、八王子市立第5小学校有志（校長他）  
 サイエンスドーム八王子館員有志、東京八王子プロバスクラブ有志